

越境する中国人のコミュニケーションとグローバル化の影響

——在日中国人留学生を事例として——

○同志社大学大学院 李文
京都大学大学院 陳全

1 目的

日本に来る外国人留学生、特に中国人留学生が増えているが、本報告では、彼らがどれぐらい日本社会に溶け込んでいるのか、彼らの家族や友人とのネットワークが彼らの留学にどのような影響を与えているのかについて考察する。また、一人っ子政策（1979～2016）世代として、彼らの SNS 利用と帰属意識の間の関係について、家族構造の視点から考察していきたい。

2 方法

2016年12月に、日本全国にいる中国人留学生474人にインターネット上のアンケート調査を行った。ここでは、彼らの年齢、性別、一人っ子かどうか、大学所属、出身階層（戸籍、親の年収や学歴）、来日年数、日本語能力、日本における生活費、恋愛状況、SNSの利用習慣、友人ネットワーク、日本人とのコミュニケーション、将来計画（就職、結婚、移住）、ストレス要因についてたずねた。この調査から得たデータは、各変数の間の相関関係を中心に分析をおこなった。

3 結果

中国人留学生は中国本土の SNS を頻繁に利用することによって、日本にいるにも関わらず中国本土にいる家族や友人とより頻繁に連絡するようになり、タコソボ化の傾向がみられる。また、SNS の利便性によって中国本土にいる家族と緊密に連絡することが求められ、逆にプレッシャーを感じる留学生も多く存在する。中国家族は核家族になりつつあるものの、外婚制共同体家族（E・トッド）のイデオロギーがまだ強いことが伺える。ジェンダー差については、男性より女性のほうが SNS の利用時間が長く、親との連絡も頻繁である。また、非一人っ子より一人っ子の留学生のほうが SNS をよく利用する傾向がみられる。一方、日本人との異文化コミュニケーションについて、全体的に不満を感じる人が多いようである。とりわけ、中国人同士の連絡が頻繁であればあるほど、不満を感じやすいことが分かった。また、一人っ子留学生より、非一人っ子の留学生のほうが不満を感じている。

4 結論

以上から、中国人留学生は日本に留学しているものの、彼らの帰属意識は特に中国にいる家族に強く向きつつあることが分かった。彼ら（特に大部分を占める私費留学生）は、家族の応援と経済的サポートがあっただけで日本に留学することが可能になっているが、伝統的な家庭観が、彼らの日本社会への適応や、卒業後の進路にネガティブな影響を与えている可能性がある。現在、日本にいる留学生にとって、母国と日本との間の地理的な壁よりは、自文化圏中心のパーソナル・ネットワークからグローバル的なネットワーク形成への壁を乗り越えることが最大の課題である。それは彼らの留学生活だけではなく、彼らの異文化社会への適応やホスト社会への理解一般につながると考えられる。

文献

石原邦雄・青柳涼子・田淵六郎共編, 2013, 『現代中国家族の多面性』弘文堂
首藤明和・落合恵美子・小林一穂共編著, 2008, 『分岐する現代中国家族』明石書店
エマニュエル・トッド, 荻野文隆(訳), 1999=2008, 『世界の多様性：家族構造と近代性』藤原書店